条件づけの理論と応用

科目ナンバリング　EXP-204
選択　　2単位

望月　　要

1. 授業の概要（ねらい）

『学習心理学I』に引続き，主に実験行動分析学の枠組から，我々ヒトを含む動物の行動変容の法則に関して，特に重要なテーマを取り上げ，その基本概念，古典的な実験の意義，重要な現象について講義する。

2. 授業の到達目標

ヒトを含む動物の行動変容に関する重要なテーマついて，科学的な原理に基づいて記述し，その代表的実験例を説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

学期末試験の成績のみで成績を決める。試験には所定の持ち込み用紙だけの持ち込みを認め，持ち込み用紙の内容30点，事前予告問題20点を含め，100点満点で評価する。配布資料，参考書類の持ち込みは認めない。

4. 教科書・参考文献

教科書
テキストは使用しない。以下の書籍は理解を深める上で有益であろう。
参考文献
小野浩一　『行動の基礎』（2016）　培風館
実森正子・中島定彦　『学習の心理：行動のメカニズムを探る』（2000）　サイエンス社
レイノルズ G. S.　浅野俊夫（訳）　『オペラント心理学入門』（1978）　サイエンス社
佐藤方哉　『行動理論への招待』（1976）　大修館書店
小川隆（監修）　『行動心理ハンドブック』（1989）　培風館

5. 準備学修の内容

講義を聞く前に，毎回のテーマについて予習し，基本的な概念と専門用語は一通り知っておくこと。授業後は，毎回ノートを整理し，参考書等を参照しつつ講義内容を十分に理解すること。

6. その他履修上の注意事項

春学期の『学習心理学I』と継続して履修することが望ましい。講義を充分に理解するには予習ないし復習は不可欠である。尚，授業中の私語には厳しいペナルティを課す。

7. 授業内容

【第1回】　授業方針の説明，関連書籍・文献の紹介
【第2回】　オペラント随伴性と強化スケジュール
【第3回】　複雑な強化スケジュール
【第4回】　選択行動と定量的行動分析（1）
【第5回】　選択行動と定量的行動分析（2）
【第6回】　回避と罰の随伴性
【第7回】　“衝動性”とセルフ・コミットメント
【第8回】　複雑な刺激性制御
【第9回】　刺激性制御と概念行動
【第10回】　条件性弁別と高次オペラントクラス
【第11回】　等価関係
【第12回】　機能と随伴性による言語行動の分類
【第13回】　言語行動としての意識：私的出来事のタクト
【第14回】　言行一致：非言語行動と言語行動の相互関係
【第15回】　まとめ